

埼玉西部地区

ビジネス交流セミナー抄録

航空機分野で世界展開

三芳合金工業



私たちは特殊銅合金の開発・製造会社です。社員には親子や兄弟も多く、独特な家族的雰囲気もあると思っています。従業員数は135人で、

自前の実験設備も持っています。埼玉に工場を建てたのが63年。溶解铸造から鍛造、熱処理、機械加工まで一貫して手がけているのが特徴で、自動

車や産業機械、船舶、鉄

道車両まで幅広く手がけています。銅合金は少々高いですが、耐久性や強度に優れています。狭い業界ですが、ナンバーワン企業になりたいと思っています。

今、力を入れているのが航空機分野です。例えば、航空機の足回り部分。足は離着陸の時だけ出てきます。その足が屈伸運動するとき、シャフトを使います。このシャフトがガタガタにならないよう、穴という穴に銅合金が使われています。

社長 萩野 源次郎氏

重要保安部品であり、すり減ってなくても10年で必ず交換します。安定した需要のある部品と言えます。

航空機の需要は今後も確実に増加し、新造機が増えれば交換需要にも派生します。そういう分野に弊社の材料が使えないかと考え始めたのが15年くらい前でした。社員数135人の規模とはいえ、将来を見据え、少量だけでもなく、中量の製品にも挑戦していこうと、サービスやインフラ、オペレーションなどで航空機分野に向けた体制を整えました。もっと機械加工機能の充実が必要だとして、機械設備も

入れました。航空機業界のユーザーは材料が良ければ性能を評価して下さり、リピートの注文も頂いております。取引先は欧米系が多いので、コミュニケーションのとれる外国人社員がいることも安心感につながっているようです。現在、当社では米国など数人の外国人に働いてもらっています。世界各国で行われる展示会や商談会にも出展しています。過去は100%国内販売だったので、世界展開はチャレンジ精神で進めています。勇気と忍耐力も必要です。

また、弊社の家族主義的な社風ですが、これですべてはいい、終わってはいけない、方針管理・計画管理ができる能動的な会社にしていきたいと思っています。零細企業から中小企業へと成長していく中で、効率を重視しないと競争には勝てません。しかし、その時に家族的な雰囲気を捨て去ってしまうと、大企業に成長した会社も昔のいい雰囲気がなくなってしまう話をよく聞きます。私たちは大企業にはなれないと思いますが、いつまでも家族的な雰囲気を大事にした中堅の企業を目指して参ります。